

# 学校がなくなったら！？

## 子どもと保護者に負担

### 通学に最長 12.3 km！

山野小学校では最長 11.4 km、中学校は 12.3 kmと、通学距離が大幅に長くなります。

子どもの疲労・安全問題・放課後活動の制約など大きな負担です。

- スクールバスの予算問題
- 路線バスが廃止され、結局親が送り迎えするしかなくなった例も。

遠いよ〜...



### 小さな学校がなくなる

いじめや不登校など様々な理由から大規模校になじめず、学校選択制で小規模校を選んだ子どもの教育の場を奪うことになります。(6小3中総生徒数232人)



### 小規模校は心の傷を いやしてくれました。

小規模校は、学校をあきらめていた子と親にとって、安心の場所です。少人数を生かし、学習面でのサポートも充実。心に傷を負った子を、あたたかく見守ってくれ、失った自己肯定感を取り戻せる、かけがえのないよりどころです。

保護者の声

### 子どもの意見は聞かない！？

9月議会で市教委は子どもたちへは「特に説明はしない」旨の答弁でした。当事者である子どもの声を聞かないのは許せません。

## 過疎化につながる

### 地域の核がなくなる

学校は、文化的な活動や地域の交流、災害避難場所など多様な役割を果たしています。

### 高齢化に拍車がかかる

学校が地域からなくなると、若い人が地域から流出し、人口減少に拍車がかかります。

たとえば、岐阜県高山市の高根町では、合併前の人口は700人台で推移していましたが、小・中学校の廃校により400人台にまで落ち込み、高齢化率は30%→50%超になりました。

学校があれば  
住み続けたい

### 子育て世代の 定住を阻む

今、「定住促進住宅」や「地域力アップ事業」などを活用し、地域ぐるみで様々な努力をして人口増加をすすめています。

学校をなくせば、過疎対策に奮闘する地域に冷や水を浴びせることになります。



# 小規模校じゃいけないの！？

## 小さくても豊かな学校を守ろう

市は、一定規模の集団が必要と言いますが、その教育効果について国も結論を出していません。

小規模校には、一人ひとりに目がゆき届き、すべての子どもに活躍の場をつくれるなどの利点があります。

学力的にも、知識の詰め込みでなく、応用力、思考力、問題解決力など知的能力や知恵を身につけるには少人数学習が有効です。また、運動会や文化祭など地域と一体で開催され、伝統文化や地域の技能が次世代に継承されています。



### 小さな学校、小さなクラスこそ望ましい

- WHO(世界保健機関)は“教育効果”の観点から、学校は生徒100人を上回らない規模が望ましいとする研究結果をまとめている。  
※カークパトリック・セール著『ヒューマンスケール』より
- 日本教育学会の継続研究で、いじめや学校不適応などの問題は大規模な学校の方が多いという報告がされている。  
※「学級編成に関する統合的研究」より
- 文科省は、「(統廃合は)行政が一方向的に進めるものではない」「保護者や子どもの声を重視し、十分な理解と協力が必要」としている。さらに「(小規模校の)存続が必要な地域は、いったん休校とした学校を、コミュニティの核として再開する地域もあり、市の判断も尊重される」としている。  
※文科省：『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引』より



### 小規模校だからこそ...

- いじめはなく、一人ひとりの仲が良かった。
- みんな知り合いの共同体感覚で学生生活がおくれた。
- 授業も分かるまで教えてもらえて、ついていけない子がいなかった。
- 先生との距離感も近く、授業中に居眠りやサボる子もいなかった。
- そのため平均点が他校より高かった。
- 文化祭や発表会、運動会では人数が少ない分、みんなに役がまわり人前に出る機会が多く与えられた。僕の代では発表も自由度が高く、自作の劇やコント、演奏など何でも提案してやらせてもらったことが将来の糧となった。
- 課外では自然に触れて山や川で友達とよく遊び、豊かな情操が養われた。



統廃合の対象となった小・中学校の卒業生の声